

ラトビア月報

【2021年6月】



2021年（令和3年）7月発行

在ラトビア日本国大使館

<http://www.lv.emb-japan.go.jp/>

主な内容

【政治】

- ・ 地方自治体選挙の実施 (P. 1)

【経済】

- ・ レール・バルティカ計画のリガ空港駅の建設開始 (P. 2)

【外交】

- ・ レヴィッツ大統領のブリュッセル訪問：NATO 首脳会合、バルト諸国・米国首脳会合等への出席 (P. 4)

【その他】

- ・ 東京 2020 オリンピックにラトビアから 30 名の選手が参加 (P. 9)

※「ラトビア月報」は、ラトビアにおける政治・経済状況等について、ラトビア政府発表や各種報道等の公開資料（原則として該当月の月末までの情報）を取りまとめたもので、在ラトビア日本国大使館の見解を述べたものではありません。月別の時事情報として御参照いただければ幸いです。

— 政治 —

【今月の注目記事】

◆地方自治体選挙の実施

6月5日、2020年の地方行政制度改革後の初となる地方自治体選挙が、リガ市、レーゼクネ地方及びバリャクラーニを除く40の自治体において実施された。投票率は史上最低の34.07%であった。2018年に実施された第13回国会選挙で第2党となった「KPV LV」は、今回の選挙において1議席のみを獲得し、同国会選挙で第3党となった「新保守党」も、多くの自治体において無議席となった。その一方で、現国会で与党を構成する「ナショナル・アライアンス」、国会野党の「緑と農民連合」、国会に議席を有しない「ラトビア地域連合」が、比較的多くの自治体で議席を獲得した。

また、新型コロナウイルス感染予防対策として、アーダジ及びイエーカブピルスにおいては自家用車からの投票が可能であった。

◆カリンシュ政権再編に伴う新大臣4名の国会承認

6月3日、ラトビア国会は、カリンシュ政権の連立再編を承認し、新大臣4人（ビテンベルグス経済大臣（ナショナル・アライアンス）、ゴルベバ内務大臣（発展・For!）、ムイジュニエツェ教育・科学大臣（新保守党）及びエグリーティス社会福祉大臣（新保守党））の就任を承認した。

◆5月の政党支持率

6月7日、ラトビアテレビは、民間調査会社「SKDS」が実施した支持政党に関する5月の世論調査結果を公表した。同調査の結果、「調和」が支持率第1位（10.3%）を維持したほか、第4位まで前回調査（4月）から変動がなかった（第2位：「ナショナル・アライアンス」8.0%、第3位：「緑と農民連合」7.7%）。カリンシュ首相の所属する「新・統一」は6.6%で第4位。「新保守党」は、前回から幾分支持率を回復し（+0.8%ポイント）、順位を第9位から第6位に上げた。なお、本件調査は、連立再編発表前の5月に行われたもので、再編によって連立を離脱した「KPV LV」の支持率は、前月、前々月に続き1%に満たなかった。

政党名（%、括弧内は前回の国会選挙の得票率）	支持率（%、括弧内は2021年4月の値）
「調和」（19.80）	10.3（12.0）
「KPV LV」（14.25）	0.8（0.2）
「新保守党」（13.59）	4.7（3.9）
「発展・For!」（12.04）	4.9（5.6）
「ナショナル・アライアンス」（11.01）	8.0（8.0）
「緑と農民連合」（9.91）	7.7（7.7）

「新・統一」(6.69)	6.6 (7.0)
「ラトビア地域連合」(4.14)	1.9 (2.0)
「ラトビアのロシア連合」(3.20)	3.6 (4.2)
「進歩党」(2.61)	3.7 (4.5)
「法と秩序」(※2021年1月立ち上げ)	3.2 (4.2)

(政党は上から2018年10月に実施された第13回国会選挙で獲得票数が多かった順)

◆春期国会閉会

6月21日、春期国会が閉会した。4月6日からの会期中、新型コロナウイルスの感染防止の観点から、電子国会(e-Saeima)システムを利用した遠隔審議が行われた。また、独立回復31周年の5月4日、独立回復宣言記念日に際し記念議会が行われ、ムールニエツェ国会議長が演説した。

— 経済 —

【今月の注目記事】

◆レール・バルティカ計画のリガ空港駅の建設開始

6月16日、レール・バルティカ計画のラトビアでの実装を担当する欧州鉄道ライン社は、6月30日からリガ空港駅及びその関連インフラの建設を開始すると発表した。同駅はバルト三国における初の高速鉄道及び航空路を結ぶセンターとなる。

同駅及びその関連インフラの建設は、2025年12月までに5段階に分けて行われ、2023年3/4月までの第1段階では、同駅ターミナル及びイマンタ駅からリガ空港駅までの鉄道関連インフラを建設する。これらの建設は、ラトビアのBinders社及びLNK Industries社、オーストリアのSwietelsky社により構成される「B. S. L. Infra」が担当する。

◆2021年第1四半期の平均月給は前年同期比9.5%増の1,207ユーロ

6月1日、中央統計局は、2021年第1四半期の平均月給(グロス)は前年同期比9.5%増の1,207ユーロとなったと発表した。業種別では、金融・保険部門(2,314ユーロ)や情報・通信部門(1,971ユーロ)の月給額が特に高かった一方、宿泊・食品サービス部門(716ユーロ)や教育部門(950ユーロ)などは平均を下回っていた。なお、手取りの平均月給(ネット)は前年同期比で9.6%増加し、891ユーロとなった。

◆2021年5月の消費者物価上昇率は2.6%

6月8日、中央統計局は、2021年5月の消費者物価上昇率が対前年同月比1.7%(前月比では0.5%)であったと発表した(財価格は2.8%上昇、サービス価格は1.7%上昇)。部門別では、運輸部門(11.4%)、特に、燃料費(29.5%)、娯楽・文化部門(3.0%)及び

医療・保健サービス（3.0%）などで物価の上昇が見られた。

◆2021年5月末の失業率は7.6%

6月9日、国家雇用庁は、2021年5月末の失業率は前年同月末比0.8%ポイント減の7.6%であったと発表した。地域別では、リガ地方が5.7%（1.1%ポイント減）で最低となり、ピゼメ地方が7.4%（0.6%ポイント減）、ゼムガレ地方が7.1%（0.9%ポイント減）、クルゼメ地方が7.8%（1.1%ポイント減）、ラトガレ地方が15.9%（0.2%ポイント増）で最大となった。また、同庁に登録された失業者は68,765人（7,675人減）となった（括弧内は2020年5月末比）（※前年同月末比は当館算出）。

◆ラトビア・ガス社は7月より一般家庭向けの天然ガス料金を値上げ

6月10日発行のラトビア官報によると、7月1日より、ラトビア・ガス社は一般家庭向けの天然ガス料金（税込み価格）を25%から43.1%の幅で値上げすることとなった。消費量が250立法メートル未満の家庭は43.1%の値上げとなり（1立法メートルあたりの価格は0.49949ユーロ～0.71472ユーロ）、消費量が250～500立法メートル未満の家庭は25.0%の値上げ（同0.46328ユーロ～0.57912ユーロ）、消費量が500立法メートル以上の家庭は38.5%の値上げ（同0.30084ユーロ～0.41668ユーロ）となる。この他、固定費等も11.9%から52.8%の幅で値上げが行われる。

◆ラトビア中央銀行は2021年のGDP成長率予測を3.3%に据え置き

6月14日、ラトビア中央銀行は、ラトビア及び世界的な新型コロナウイルスのワクチン接種完了者の増加や、これに伴う段階的な規制緩和による経済状況改善の予測等を理由に、2021年及び2022年のGDP成長率の予測をそれぞれ3.3%及び6.5%に据え置いた。また、2021年及び2022年の消費者物価上昇率をそれぞれ2.0%（1.8%）及び2.9%（2.2%）に上方修正した（括弧内は2021年3月に行われた前回予測）。

さらに、新型コロナウイルス感染症流行からの回復の進展はいまだ段階的であり、政府による企業等への支援が延長され、今後も社会支出の増加が見込まれることから、2021年、2022年及び2023年の一般財政赤字の予測をそれぞれ9.9%（7.7%）、2.1%（1.2%）及び0.8%（0.2%）に上方修正した（括弧内は2021年3月に行われた前回予測）。主な指標は以下のとおり。

	2021年	2022年	2023年
実質GDP成長率（%）	3.3	6.5	3.6
消費者物価上昇率（%）	2.0	2.9	2.0
失業率（%）	8.3	7.3	7.0
一般政府財政赤字（対GDP%）	9.9	2.1	0.8
一般政府債務残高（対GDP%）	48.9	50.6	47.8

◆ラトビア財務省は2021年のGDP成長率を3.7%に上方修正

6月16日、財務省は2021年から2024年までのマクロ経済予測を発表し、2021年及び2022年のGDP成長率をそれぞれ3.7%（3.0%）及び5.0%（4.5%）に上方修正した。また、2021年及び2022年の消費者物価上昇率をそれぞれ2.0%（1.4%）及び2.4%（2.0%）に上方修正した（括弧内は2021年2月に行われた前回予測）。

レイルス財務大臣は、ラトビア及び主な貿易パートナー国における新型コロナウイルス流行の抑制、2021年の国の支援策、EU基金の増額により、より速い経済成長が期待できることや、規制解除後の本年後半に個人消費が回復すると期待され、個人消費の伸びにより経済成長が引き上げられる見込みである等とコメントした。

財務省によると、主な指標は以下のとおり。

	2021年	2022年	2023年	2024年
実質GDP成長率（%）	3.7	5.0	3.5	3.4
消費者物価上昇率（%）	2.0	2.4	2.2	2.0
失業率（%）	7.9	7.0	6.3	5.9

◆2020年のシャドウ・エコノミーは前年比1.6%ポイント増の対GDP比25.5%

6月16日、ストックホルム商科大学リガ校は、バルト諸国のシャドウ・エコノミー（地下経済）指数（2009年-2020年）「Shadow Economy Index for the Baltic Countries 2009-2020」を公表した。これによると、2020年、ラトビアにおいてシャドウ・エコノミーがGDPに占める割合は、前年より1.6%ポイント増加して25.5%となり、2011年以降で最も高い水準となった。昨年2019年は前年比0.3%ポイント減の23.9%であった。

同指数によると、企業が支払った賃金のうち、政府への未申告の賃金の割合は23.5%（2019年は22.3%）、企業の収入のうち未申告ないし過少申告の割合は18.0%（同16.6%）、従業員のうち契約書を交わさずに雇用される者の割合は10.9%（同10.9%）。

◆EBRDは2021年のラトビアのGDP成長率を前年比3.5%と予測

6月29日、EBRDは、2021年及び2022年のラトビアのGDP成長率はそれぞれ3.5%及び5.5%になるとの予測を発表した。2020年のGDP成長率は、個人消費の急激な減少等によりマイナス3.6%であったが、失業率が新型コロナウイルスの流行前のレベルに回復してきている一方、ラトビアのワクチン接種の遅さが経済成長のリスクとなっていると指摘した。また、輸出は個人消費よりも早い回復が見込まれるとした。

— 外交 —

【今月の注目記事】

◆レヴィッツ大統領のブリュッセル訪問：NATO首脳会合、バルト諸国・米国首脳会合等への出席

6月13日、レヴィッツ大統領は、NATO 首脳会合出席のために訪問中のブリュッセルにおいて、エルドアン・トルコ大統領と会談し、バルト地域の領空警備活動へのトルコの参加について謝意を表した。レヴィッツ大統領はまた、トルコは重要な NATO の同盟国であるとし、ラトビアは、安全保障・国防政策の分野におけるトルコとの更に緊密な協力を前向きであり、さらに、ラトビアは、基準が満たされればトルコの EU 加盟交渉の継続を支持すると述べた。

6月14日、NATO 首脳会合を目前に控え、レヴィッツ大統領は、ナウセーダ・リトアニア大統領、カッラス・エストニア首相及びバイデン・米国大統領との会合に出席した。レヴィッツ大統領は、バイデン大統領に対し、NATO における米国のリーダーシップ及び環大西洋の結びつきを強固にするための米国の協力を謝意を伝えた。また、バルト地域の安全保障に対する米国の貢献に感謝し、北大西洋条約に記された目標の達成に向けて、米国は、現在もこれからも、バルト諸国にとって信頼できるパートナーであり続けると強調した。

同日、レヴィッツ大統領は NATO 首脳会合に出席した。会合後に受けた CNN のインタビューにおいて、レヴィッツ大統領は、同首脳会合は 2 つの点、すなわち①新たな戦略コンセプト「NATO2030」が採択されたこと、及び、②米国が、緊密なパートナーシップ及び NATO 内の団結へのコミットメントを改めて明確に約束したこと、の 2 点から歴史的だったと述べた。

さらに、同日、レヴィッツ大統領は、トルドー・カナダ首相と会談し、地域の安全保障及び集団防衛に関し、カナダが、ラトビアに駐留する NATO 部隊の主導国としてバルト地域の安全保障に大きく貢献していることに謝意を伝え、カナダが 2023 年以降も部隊の主導を続ける決定を下すことへの期待を述べた。また同大統領は、中国に違法に拘束されたカナダ人の解放を模索するカナダの取り組みに対し、ラトビアの揺るぎない支持を約束した。

翌 15 日、レヴィッツ大統領は、クレイネ・ブローゲル・ベルギー空軍基地を訪問し、NATO によるバルト領空警備へのベルギー軍の参加を称え、同活動に関与する全てのベルギー人パイロットに謝意を述べるとともに、NATO は加盟国間の団結を通じて安全保障を確保することを目指していると強調した。

◆リンケービッチ外務大臣の NATO 外務大臣会合出席

6月1日、リンケービッチ外務大臣は、NATO 外務大臣会合にビデオ会議形式で出席し、6月14日にブリュッセルで予定されている NATO 首脳会議に向けた意見交換を行った。出席した同盟諸国は、環大西洋関係の強化及び NATO でとられている適応策の文脈において、同首脳会議が非常に重要であるとの点で意見が一致した。リンケービッチ大臣は、同首脳会議の野心的で先を見据えたアジェンダ、そして準備段階でのストルテンベルグ NATO 事務総長のリーダーシップへの支持を表明したほか、ラトビアは、NATO の国防費支出に関する共通指針を完全に満たす加盟国の一つとして、NATO の共同出資の増大を支持すること

にも前向きであると強調した。

◆リンケービッチ外務大臣の北欧バルト（NB8）外務大臣会合出席

6月2日、リンケービッチ外務大臣は、ビデオ会議形式で行われた北欧バルト（NB8）外務大臣会合に出席し、現在の外交政策について意見交換した。ベラルーシにおける最近の動向に関し、同大臣は、ベラルーシの行為は危険をもたらすものであり、同国の市民社会への支援を継続しつつ、できるだけ早く分野を絞った制裁を導入すべきであると強調した。同大臣はまた、ベラルーシ駐在のラトビア大使及びラトビア外交官等のベラルーシからの追放に関連し、出席の各国外務大臣等からの連帯と支持に謝意を述べた。

◆リンケービッチ外務大臣のデンマーク訪問

6月3日・4日、リンケービッチ外務大臣は、デンマークを実務訪問し、バルト三国とデンマークの外交関係100周年を記念する行事に参加したほか、コフォズ・デンマーク外務大臣と会談し、二国間関係及び国際関係における最近の動向について意見交換した。リンケービッチ大臣は、「過去・現在・未来を共に：デンマークとラトビア・リトアニア・エストニアの外交関係100年」と題したイベントでスピーチした際、「ラトビアの安全保障及び防衛協力に対するデンマークの貢献は、地域の安全保障強化の鍵となってきた。ラトビアに拠点を置く北部多国籍師団本部におけるデンマークの役割は、政治的・軍事的協力の好例であるほか、リガに拠点を置くNATO戦略的コミュニケーション研究センター（NATO StratCom COE）へのデンマークの参加は、NATO内での戦略的コミュニケーション能力の向上に向けて共同で取り組みを強化していることの好例である」等と述べた。また同大臣は、地域協力の枠組みとしてのNB8（北欧バルト8か国）の重要性を強調した。

◆リンケービッチ外務大臣のジョージア訪問

6月7日・8日、リンケービッチ外務大臣はジョージアを訪問し、ザルカリアニ・ジョージア外務大臣、ガリバシヴィリ・ジョージア首相及びクチャヴァ・ジョージア国会議長と会談したほか、国会の与野党代表者等と面会した。ラトビア・ジョージア外務大臣会談では、二国間協力に関する重要な問題、ジョージアのNATO及び欧州への統合に向けた取り組み、南コーカサス地域の安全保障状況、ジョージアの内政状況及びロシアとの関係について意見を交わした。リンケービッチ大臣は、ラトビアは新型コロナウイルスのワクチンの共有メカニズムを支持すると強調し、ジョージアにワクチンを贈る用意があると約束した。

◆ラウ・ポーランド外務大臣のラトビア訪問

6月10日、ラウ・ポーランド外務大臣がラトビアを実務訪問し、レヴィッツ大統領、ムールニエツェ国会議長及びリンケービッチ外務大臣等とそれぞれ会談した。ユールマラの公邸で表敬を受けたレヴィッツ大統領は、二国間のハイレベルの往来及び活発な政治対話

等に焦点を当てて意見交換したほか、ベラルーシ、ウクライナ及び地域協力にも言及した。ムールニエツェ国会議長は、クリミア・プラットフォーム（ウクライナ問題）、ロシアによる偽情報活動との闘い、三海域イニシアティブへの参加等について意見を交わした。リンケービッチ大臣は、ラトビア・ポーランド外務大臣会談において、二国間関係、ベラルーシ及びロシアの情勢を含む安全保障・外交問題、地域協力に関する動向について意見交換した。その中で同大臣は、ポーランドがラトビアに駐留するカナダ主導の NATO 部隊への参加を通じてラトビアの安全保障確保に貢献していることについて謝意を述べたほか、ラトビアとポーランドは安全保障分野で戦略的パートナーであると強調し、地域の強固な集団防衛を確保するために両国が協力することは非常に重要と述べた。

◆カリンシュ首相のバルト・ベネルクス首脳ビデオ会議出席

6月10日、カリンシュ首相は、バルト諸国及びベネルクス諸国（ベルギー、オランダ及びルクセンブルク）の首脳とのテレビ会議に出席し、バルト・ベネルクス間の協力、新型コロナウイルスの流行（パンデミック）との闘い、安全保障政策、ロシア及び東方パートナーシップ諸国との関係、EUの気候政策、パンデミック後のEUの経済復興等について意見を交わした。カリンシュ首相は、最近の安全保障問題に関する議論において、環大西洋の結びつきの重要性及び NATO が欧州の安全保障の基礎であるという事実を強調し、「NATOの強固な集団防衛が、現在の安全保障上の課題への対応の鍵である。我々は、安全保障を強化し、ハイブリッド脅威や偽情報から守る能力の向上に高い関心を払わなくてはならない」と述べた。

◆リンケービッチ外務大臣のアブドラフマノフ OSCE 少数民族高等弁務官とのビデオ会談

6月11日、リンケービッチ外務大臣は、アブドラフマノフ OSCE 少数民族高等弁務官と初めての会談をオンラインで実施し、OSCE 加盟国における少数民族の権利を擁護するための高等弁務官の活動への支持を表明したほか、2018年に始めた教育改革に関するラトビアの経験を説明し、容易ではないが国際法の標準に沿った改革である旨を述べた。アブドラフマノフ高等弁務官は、ラトビアの社会統合に関する成果に言及した。

◆シモニーテ・リトアニア首相のラトビア訪問

6月17日・18日、シモニーテ・リトアニア首相が首相就任後初めてラトビアを公式訪問し、18日、レヴィッツ大統領、ムールニエツェ国会議長及びカリンシュ首相とそれぞれ会談した。レヴィッツ大統領は、二国間協力について意見を交わしたほか、ブルガリアで7月に開催予定の三海域イニシアティブ首脳会合に出席予定であることを伝え、同プラットフォームのバルト諸国にとっての経済的・地政学的重要性及び米国の投資を誘致する上で同プラットフォームの可能性を強調した。ムールニエツェ国会議長は、ベラルーシ問題、ラトビア・リトアニア国会間対話、バルト海議会（Baltic Assembly）に関する事項

等について意見交換した。カリンシュ首相は、二国間協力、地域問題及び国際問題について意見を交わした。両首相は、地域の安全保障の動向に関する議論において、NATO 首脳会合での決定事項及び地域にとって重要な事案の対応への米国の関与を歓迎するとともに、長い間ロシアが国際的に責任ある行動をとっていないことから、地域全体の状況が懸念されるとの点で意見が一致した。また、会談終了後、共同記者会見を行った。

◆レヴィッツ大統領のスウェーデン訪問

6月20日～22日、レヴィッツ大統領は、法律上の（de jure）ラトビア・スウェーデン外交関係100年及びラトビア独立回復後の外交関係復回復30年を記念してスウェーデンを公式訪問し、ロヴェーン・スウェーデン首相、ノーレン・スウェーデン国会議長等と面談したほか、カロリンスカ研究所、ウプサラ大学等への訪問、ビジネス関係者との面談、オンライン・ビジネス・フォーラムにおける開会スピーチ等を行った。ロヴェーン首相との会談では、二国間関係、ルール・バルティカをはじめとしたインフラ・プロジェクト、北欧・バルト諸国の科学・研究・技術協力の重要性、EUの東方パートナーシップ、EUの現在の優先事項、ジョージア、ウクライナ並びにモルドバのEU加盟に向けた支援及びNATO・スウェーデン間のより緊密な協力等について意見を交わした。

◆リンケービッチ外務大臣のEU外務理事会及びEU総務理事会出席

6月20日～23日、リンケービッチ外務大臣は、ルクセンブルクにおいてEU外務理事会及びEU総務理事会に出席した。21日に行われたEU外務理事会では、ベラルーシ情勢、EUとラテンアメリカ諸国の関係及びイラクの状況について意見が交わされ、同大臣は、EUがベラルーシに対する新たな制裁パッケージを科す判断を下したことについて、ラトビアは同決定を完全に支持すると述べ、同制裁はベラルーシの人々を対象としたものではなく、ルカシェンコ政権及び同政権高官を標的としたものであると指摘した。また、22日、同大臣は、EU総務理事会において、同月24日及び25日に開催予定のEU首脳会合に向けた準備、EUの拡大、安定化・連合プロセス、「欧州の将来に関する会議」の今後、EUの価値観、ポーランド並びにハンガリーにおける法の支配等について意見を交わした。

◆カリンシュ首相のEU首脳会合出席

6月24日・25日、カリンシュ首相は、EU首脳会合（於：ブリュッセル）に出席し、新型コロナウイルスの流行対策、経済復興、EU・トルコ関係及びEU・ロシア関係等について議論した。同首相は、5月に欧州理事会で議論が始まったEU・ロシア関係の長期的発展に関し、同議論の結果分かったのは、ロシアとの交渉開始のための条件を設定することのできる、団結した強い欧州であるとし、ロシア政府が理解できるのは権力政治だけだが、我々には団結力があり、我々はそれを認識し生かすだけである、我々が団結すれば、ロシアの指示を許すのではなく、我々の要求を机上に載せられる等と述べた。

◆リンケービッチ外務大臣の「対 ISIL 有志連合」閣僚級会合出席

6月28日、リンケービッチ外務大臣は、「対 ISIL 有志連合」閣僚級会合（Ministerial Meeting of the Global Coalition to Defeat Daesh/ISIS）（於：ローマ）に出席し、ISIL との闘いにおける、有志連合パートナー諸国の取り組みの進展状況について意見交換した。同大臣は、有志連合の取り組み支援に関するラトビアのコミットメントを約束し、「共通のコミットメントと包括的な取り組みによって、我々は、ISIL 打倒を確かなものとするだろう」とし、テロや暴力を後押しするオンライン上のメッセージ等の拡散を防ぐ必要性を強調した。

◆ラトビア・ケニア外務大臣会談

6月28日、リンケービッチ外務大臣は、「対 ISIL 有志連合」閣僚級会合に出席のために訪問中のローマにおいて、オマモ・ケニア外務長官と会談し、特に IT、通信技術分野といった、共通の関心分野での二国間関係の強化等について意見交換した。リンケービッチ大臣は、オマモ外務長官に対し、疫学的状況が許せば、リガにおいて第2回ラトビア・ケニア政務協議を開催することを提案した。

— その他 —

【今月の注目記事】

◆東京 2020 オリンピックにラトビアから 30 名の選手が参加

6月30日、ラトビア・オリンピック委員会は、ラトビアより東京 2020 オリンピック大会に出場する 30 名の選手を発表した。これら 30 名の選手は 3X3 バスケットボール、レスリング、柔道、馬術、空手、近代五種、水泳、ビーチバレーボール、自転車競技（ロード及び BMX）、カヌー、ウェイトリフティング、射撃、テニス及び陸上競技の 14 の競技に出場する。

7月5日、ラトビア・オリンピック委員会はこれらの選手のための壮行会を開催し、レヴィッツ大統領が出席した。レヴィッツ大統領は、ラトビア・オリンピック委員会、コーチ等の選手を支えてきたすべての人々に感謝の意を表するとともに、選手らに対し、ラトビアの 200 万人のファンが応援していると激励した。また、3X3 バスケットボールのキャプテン、アグニス・チャヴァルス選手が開会式の旗手を務めることが発表された。

◆デジタル COVID 証明書の発行開始

6月1日、ラトビアにおけるデジタル COVID 証明書の発行が開始され、専用ウェブサイト (<https://covid19sertifikats.lv/>) が立ち上げられた。同ウェブサイトは、ラトビア語、ロシア語及び英語で利用が可能。同サイトから、新型コロナウイルスのワクチン接種完了の証明、新型コロナウイルスの検査結果（陰性）の証明、過去に新型コロナウイルス

に罹患し完治したことの証明、の3種類の証明書が発行可能である。7月1日にはEU域内での本格運用が始まり、ラトビアで発行されたデジタルCOVID証明書はこれらの国々においても有効となった。

◆政府はラトビアへの入国規制を緩和

6月15日、政府は、デジタルCOVID証明書の導入に伴い、翌16日よりラトビアへの入国規制を緩和することを決定した。主な変更点は以下のとおり。

- ①新型コロナウイルスワクチンの接種完了又は半年以内に新型コロナウイルスに罹患後完治したことを、デジタルCOVID証明書（9月1日までの移行期間中は、同証明書に相当する、英語又は出発国の言語による証明書（紙媒体または電子データ）で代用可）により証明できる場合：

EU、欧州経済領域（EEA）、スイス、英国及び疾病予防管理センター（SPKC）の指定する「低リスク第三国」（日本を含む（7月17日時点））からは、渡航目的にかかわらずラトビアへの入国が可能。また、入国前の検査による陰性証明の取得、空港到着時の検査、及び入国後10日間の自己隔離は不要。

- ②上記証明書が提示できない場合：

EU、EEA、スイス、英国及びSPKCの指定する「低リスク第三国」からは、必要不可欠でない渡航であっても入国は可能であり、ラトビア空港到着時の検査も不要であるが、入国前の検査による陰性証明の取得は引き続き必要（12歳未満の子供については陰性証明は不要。ただし入国後10日間は家族以外の人との接触はできず、通学や公共交通機関の利用も不可）。また、「低リスク第三国」のうち過去14日間における人口10万人あたりの新規感染者数が75人以上の国からラトビアに入国する際は、自己隔離が必要。

2021年6月の主な出来事

	【内政】	【外交】
6月	<p>3日、カリンシュ政権再編に伴い指名された新大臣4名の国会承認</p> <p>21日、春期国会閉会</p>	<p>1日、リンケービッチ外務大臣、NATO外務大臣会合出席(ビデオ会議)</p> <p>2日、リンケービッチ外務大臣、北欧バルト(NB8)外務大臣会合出席(ビデオ会議)</p> <p>3日・4日、リンケービッチ外務大臣、デンマーク訪問</p> <p>7日・8日、リンケービッチ外務大臣、ジョージア訪問</p> <p>10日、ポーランド外務大臣のラトビア訪問。レヴィッツ大統領、ムールニエツェ国会議長、リンケービッチ外務大臣と会談</p> <p>10日、カリンシュ首相、バルト・ベネルクス首脳会議出席(ビデオ会議)</p> <p>11日、リンケービッチ外務大臣、アブドラフマノフOSCE少数民族高等弁務官とビデオ会談</p> <p>13日、レヴィッツ大統領、ブリュッセル訪問。トルコ大統領と会談。14日、NATO首脳会合及びバルト諸国・米国首脳会合出席。カナダ首相と会談。</p> <p>17日・18日、シモニーテ・リトアニア首相のラトビア訪問</p> <p>20日～22日、レヴィッツ大統領、スウェーデン訪問</p> <p>20日～23日、リンケービッチ外務大臣、EU外務理事会及びEU総務理事会出席(於ルクセンブルク)</p> <p>24日・25日、カリンシュ首相、EU首脳会合出席(於ブリュッセル)</p> <p>28日、リンケービッチ外務大臣、「対ISIL有志連合」閣僚級会合出席(於ローマ)</p> <p>28日、リンケービッチ外務大臣、ケニア外務大臣と会談(於ローマ)</p>

ラトビア主要経済指標

GDP

	単位	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021 Q1	2021 Q2	出典
名目GDP(※1)	百万ユーロ	24,561	25,360	26,962	29,143	30,421	29,334	30,439	-	公式統計ポータル
国民一人当たりGDP	ユーロ	12,421	12,943	13,890	15,129	15,901	15,431	-	-	公式統計ポータル
国民一人当たりGDP/EU平均	%	65	66	67	69	69	72	-	-	EU統計局
実質個人消費/EU平均	%	66	67	68	69	70	-	-	-	EU統計局
GDP実質成長率(※2)	%	4.0	2.4	3.3	4.0	2.0	▲ 3.6	▲ 6.5	-	公式統計ポータル
GDP実質成長率(※3)	%	-	-	-	-	-	-	▲ 1.3	-	公式統計ポータル

(※1) 四半期は季節調整値の年率、(※2) 四半期は前期比年率、(※3) 前年同期比(原数値)

財政収支, 政府債務残高

	単位	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021 Q1	2021 Q2	出典
財政収支	百万ユーロ	▲ 350	39	▲ 211	▲ 234	▲ 172	▲ 1,327	▲ 515	-	公式統計ポータル
財政収支対名目GDP比	%	▲ 1.4	0.2	▲ 0.8	▲ 0.8	▲ 0.6	▲ 4.5	-	-	公式統計ポータル
政府債務残高	百万ユーロ	9,105	10,245	10,519	10,816	11,247	12,750	13,430	-	公式統計ポータル
政府債務対名目GDP比	%	37.1	40.4	39.0	37.1	37.0	43.5	-	-	公式統計ポータル

失業率, 消費者物価上昇率, 月額平均賃金

	単位	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021 Q1	2021 Q2	出典
失業率	%	9.9	9.6	8.7	7.4	6.3	8.1	8.1	-	公式統計ポータル
消費者物価上昇率(※)	%	0.2	0.1	2.9	2.5	2.8	0.2	▲ 0.1	2.3	公式統計ポータル
平均賃金(グロス)	ユーロ	818	859	926	1,004	1,076	1,143	1,207	-	公式統計ポータル
平均賃金(ネット)	ユーロ	603	631	676	742	793	841	891	-	公式統計ポータル
最低賃金(月額, グロス)	ユーロ	360	370	380	430	430	430	500	500	公式統計ポータル
世帯一人あたり可処分所得	ユーロ	417	437	489	546	583	-	-	-	公式統計ポータル

(※) 四半期は前年同期比

対内直接投資(FDI)

	単位	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021 Q1	2021 Q2	出典
海外直接投資残高	百万ユーロ	13,532	13,591	14,691	15,261	15,925	16,671	16,697	-	中央銀行

貿易統計

	単位	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021 Q1	2021 Q2	出典
輸出(FOB)	百万ユーロ	10,505	10,490	11,647	12,773	12,966	13,292	3,550	-	公式統計ポータル
輸入(CIF)	百万ユーロ	12,710	12,417	14,177	15,793	15,914	15,152	3,867	-	公式統計ポータル
貿易収支	百万ユーロ	▲ 2,205	▲ 1,927	▲ 2,530	▲ 3,020	▲ 2,948	▲ 1,860	▲ 317	-	公式統計ポータル

日・ラトビア貿易(ラトビア政府統計)

	単位	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021 Q1	2021 Q2	出典
日本への輸出	千ユーロ	39,592	48,524	50,526	53,343	56,637	49,479	12,628	-	公式統計ポータル
日本からの輸入	千ユーロ	20,405	18,974	22,282	25,668	27,999	21,736	5,987	-	公式統計ポータル
対日貿易収支	千ユーロ	19,187	29,550	28,244	27,675	28,638	27,743	6,641	-	公式統計ポータル

日・ラトビア貿易(日本政府統計)

	単位	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021 Q1	2021 Q2	出典
ラトビアへの輸出	百万円	6,386	5,523	7,573	7,325	5,794	4,459	1,091	-	財務省統計
ラトビアからの輸入	百万円	7,217	9,291	8,017	8,847	8,868	8,639	2,061	-	財務省統計
対ラトビア貿易収支	百万円	▲ 831	▲ 3,768	▲ 444	▲ 1,522	▲ 3,074	▲ 4,180	▲ 970	-	財務省統計

両国間の訪問者数

	単位	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021 Q1	2021 Q2	出典
ラトビア→日本	人	1,803	2,484	2,487	2,551	2,701	393	1	-	日本政府観光局
日本→ラトビア(宿泊統計)	人	21,575	23,191	24,576	29,534	20,416	2,358	34	-	公式統計ポータル

(注) ラトビアは2014年1月1日ユーロを導入した。2021年6月末現在、1ユーロ=132円程度。

(2021年7月13日まで公表分のデータ)